

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援施設はじめの一步 須恵事業所2nd		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 31名
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	十分な職員配置が出来ており、継続した手厚いサポートを提供できる。	利用児の人数や特性を考慮し、携わる職員数や配置する場所などを検討している。	職員配置だけではなく、視覚支援などの環境面でも更にサポートの厚みを増していく。また、職員の専門性をさらに高めるための、事業所内外の研修をさらに充実させる。
2	5領域における観点から、運動や机上での活動、SST、戸外余暇活動など活動内容のバリエーションが豊富。	運動と机上活動は毎日取り入れ、静と動のバランスに配慮して活動の流れや内容に配慮している。また、児童の興味・関心や、課題性に配慮した活動内容をチームで立案・実践している。	子ども達の状況の確認と、今後の支援方法について、共有・話し合うミーティングを継続して取り組むこと。またケース会議を定期的に設定し、見立ての精度を上げ、支援のPDCAサイクルを回す。
3	外部研修を取り入れ、定期的に支援のスーパーバイズを受ける機会があり、支援の質をより良くしていることとする文化がある。	学んだことを実際に支援に活かしていくよう、振り返りを丁寧に実施している。	職員一人ひとりがケースをまとめ、どのような見立てで、どのような支援をしようとしているか言語化できる機会を増やす。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童数と環境の問題(スペースと設備の問題) ①	活発な児童と静かに過ごしたい児童が同一スペースに共存せざるを得ない状況。(利用児童の下校時間のズレによる)	現在も対応しているが、活動については小グループに分けて対応。自由遊びについては、時間を決めてボール使用し、工作等の活動を選択する児童との時間をずらしていく。
2	利用児童数と環境の問題(スペースと設備の問題) ②	事業所のももとの構造上、階段の傾斜が急になっており、トイレも二階にのみ設置されている。	児童が階段を昇降する際には、必ず職員が見守る体制にしている。また1回の空調については、外気漏れを防ぐ対応を検討中。
3	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	開設1年目ということもあり、地域の中での存在価値が定着していない。	まずは地域住民とのコミュニケーションを深めていくこと、地域行事を知り、積極的に参加していくことから開始していく。